

01

同梱物を確認しよう

パッケージを開いたら、すべてのものが入っているか確認してください。不足している場合は、お買い上げになった販売店にお問い合わせください。

所要時間: 約 50分

TD716-DS

- PD-14DSX (デジタル・スネア) × 1
- CY-18DR (デジタル・ライド) × 1
- VH-14D (デジタル・ハイハット) × 1
- PD-10X (タム 1、2) × 2
- PD-12X (タム 3、4) × 2
- CY-16R-T (クラッシュ 1、2) × 2
- MDH-STG2 (パッド・マウント) × 1
- ドラム・キー × 1

- 取扱説明書
- TD716 セットアップ・ガイド (本書)
- PD-14DSX 取扱説明書
- CY-18DR 取扱説明書
- VH-14D 取扱説明書
- PD-12X / PD-10X 取扱説明書
- CY-16R-T / CY-14C-T 取扱説明書

- ケーブル
 - トリガーケーブル (タム 4 接続用) × 1
 - 接続ケーブル × 3 (PD-14DSX、CY-18DR、VH-14D のそれぞれに同梱)
- ※ PD-14DSX、CY-18DR、VH-14D、CY-16R-T の付属品は、それぞれの梱包箱に入っています。

V71 (ドラム音源)

- 付属品
- V71 クイック・スタート (保証書含む)
- Roland Cloud Connect セットアップ・ガイド
- Roland Cloud アクティベーション・カード
- AC アダプター

KD-18 (キック・ドラム)

※ KD-18 の付属品は、「KD-18 取扱説明書」を見ながら確認してください。

MDS-Stage 2 (ドラム・スタンド)

※ MDS-Stage 2 の付属品は、「MDS-Stage 2 取扱説明書」を見ながら確認してください。

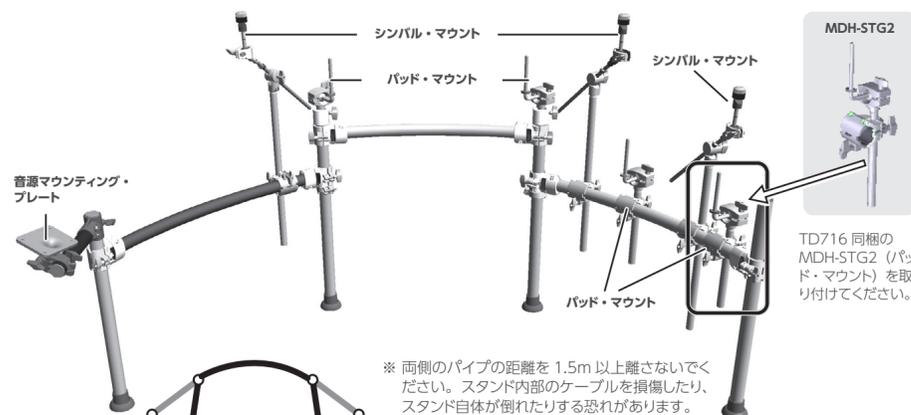
※ このパッケージには、キック・ペダル、ハイハット・スタンド、スネア・スタンドは含まれていません。市販のものをお使いください。

02

ドラム・スタンド (MDS-Stage 2) を組み立てよう

「MDS-Stage 2 取扱説明書」の手順に従って、スタンドを組み立ててください。

所要時間: 約 40分



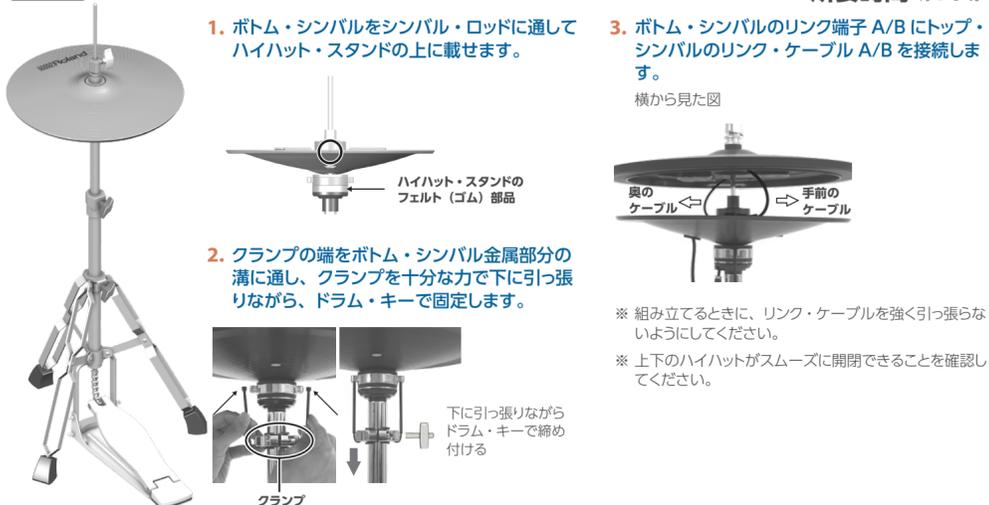
ここで前半の組み立てが終わりました。休憩はいかがですか？

03

ハイハット (VH-14D) を組み立てよう

「VH-14D 取扱説明書」の手順に従って、ハイハットを組み立ててください。

所要時間: 約 10分

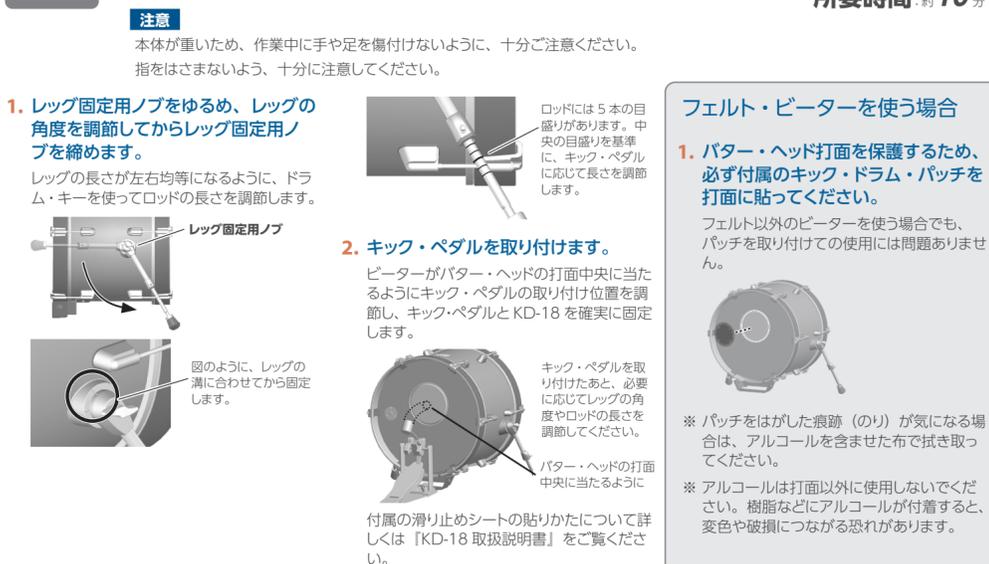


04

キック・ドラム (KD-18) を組み立てよう

「KD-18 取扱説明書」の手順に従って、キック・ドラムを組み立ててください。

所要時間: 約 10分



05

各パーツを取り付けよう

各パーツについて詳しくは、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

所要時間: 約 50分

スタンドへ設置するときの注意

「TD716 セットアップ・ガイド」(本書) の指示どおりに設置してください。

正しく設置しないと、不安定な状態となって落下や転倒を引き起こし、けがをする恐れがあります。

ハイハット (VH-14D) を設置する

VH-14D の DIGITAL TRIGGER OUT 端子に、VH-14D 付属の接続ケーブルのプラグを差し込みます。



ドラム音源 (V71) を取り付ける



クラッシュ・シンバル (CY-16R-T) とライド・シンバル (CY-18DR) を取り付ける

- シンバル・マウントの山部分とシンバル底面の谷部分が合うように載せます。
- 適度な揺れが得られるように、シンバル・ナットを締めます。

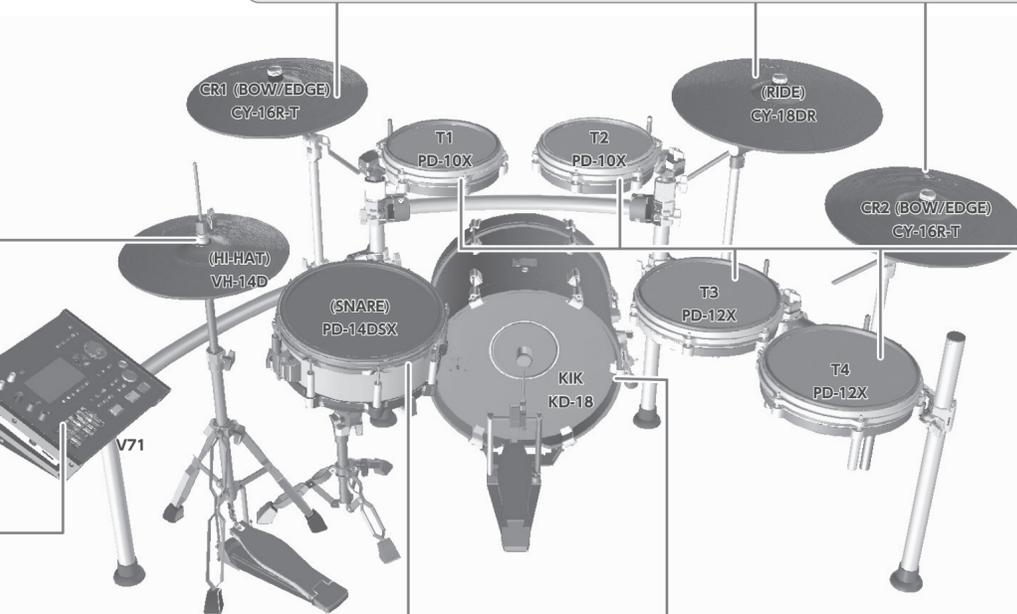
※ ドラム・スタンドに付属のシンバル・ナットとフェルト・ワッシャーをお使いください。



- デジタル・トリガー・アウト端子に、接続ケーブルのプラグを差し込みます。



タム (PD-10X、PD-12X) を取り付ける



スネア (PD-14DSX) をスネア・スタンドに取り付ける

PD-14DSX は、市販のスネア・スタンドに取り付けて使用してください。

- PD-14DSX の DIGITAL TRIGGER OUT 端子に、PD-14DSX 付属の接続ケーブルのプラグを差し込みます。



キック・ドラム (KD-18) を調節する

- 設置場所に合わせて、レッグの先端 (スパイク/ラバー) を調節します。

スパイク	ラバー
柔らかい床面 V-Drums マット (TDM シリーズ)、カーペットなど	固い床面 フローリング、コンクリートなど

フット・ナットをゆるめ、フットを回して上に動かすと、スパイク部分が出ます。フット・ナットを締めると、フットの位置を固定できます。



ツイン・ペダルを使う場合

KD-18 は、ツイン・ペダルを使用することもできます。
2 つのペーターの打点が、打面の中心から左右対称になるように設置してください。



06

パッドとドラム音源を接続しよう

※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞って、すべての機器の電源を切ってください。

所要時間: 約 10分

1. スタンド (MDS-Stage 2) に内蔵されているケーブルの、I型プラグをドラム音源 (V71) に接続します。



マーキング・ラベル	KIK	T1	T2	T3	T4
TRIGGER IN 端子	KICK	TOM 1	TOM 2	TOM 3	TOM 4

マーキング・ラベル	CR1	CR2
TRIGGER IN 端子	CRASH1	CRASH2

マーキング・ラベル	AX1	AX2	AX3	AX4
TRIGGER IN 端子	AUX 1	AUX 2	AUX 3	AUX 4

2. ケーブルの L 型プラグを各パッドに接続します。

ケーブルを接続するときは、ケーブル両端のマーキング・ラベルを参照してください。

L 型プラグ



マーキング・ラベル

- **注意**
CY-16R-T はクラッシュ・シンバルとして使用します。ペル・ショツトはできません。

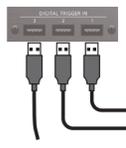


- TOM4 の接続には、TD716 に同梱のトリガーケーブルを使用してください。

PD-14DSX (スネア)、CY-18DR (ライド)、VH-14D (ハイハット) の接続

1. V71 の DIGITAL TRIGGER IN 端子に、接続ケーブルのプラグを差し込みます。

※ 1~3 のどこに接続しても構いません。



接続したケーブルは、演奏の妨げにならないように、各マウントのケーブル・クリップで固定してください。



左利き用のセッティングにする場合

本ガイドで説明しているセッティングは右利き用です。左利き用のセッティングにする場合は、ドラム音源 (V71) の位置はそのままに、各パッド/シンバル類を、取り付けクランプごと左右対称に入れ替えてください。

その際、一部のケーブルの長さが不足しますので、市販の延長ケーブル (TRS 標準メス ↔ TRS 標準オス) を使って、ケーブルの長さを調節してください。

これで、組み立てと接続が完了しました。

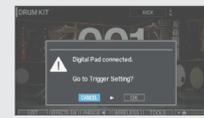
接続が完了したら「V71 クイック・スタート」の手順に従って電源を入れ、音が鳴るかを確認してください。

07

スネア (PD-14DSX)、ライド・シンバル (CY-18DR)、ハイハット (VH-14D) の設定

DIGITAL TRIGGER IN 端子に PD-14DSX、CY-18DR、VH-14D を初めて接続すると、以下の画面が表示されます。

画面に従って、PD-14DSX をスネアに、CY-18DR をライドに、VH-14D をハイハットに設定します。



※ TRIGGER IN 端子に接続したパッドと同じトリガー・インプットに割り当てると、TRIGGER IN 端子に接続したパッドの音は出力されません。

1. [OK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

TRIGGER - DIGITAL PAD 画面が表示されます。



2. カーソルボタンで [PD-14DSX]、[CY-18DR] または [VH-14D] の Assign (アサイン) を選び、[-] [+] ボタンまたはダイヤルで設定します。

PD-14DSX	SNARE
CY-18DR	RIDE
VH-14D	HI-HAT

3. [KIT] ボタンを押して、KIT 画面に戻ります。

08

トリガー・バンクを TD716 に設定する

1. [TRIGGER] ボタンを押します。

2. [F1] (BANK) ボタンを押します。

TRIGGER BANK 画面が表示されます。

トリガー・バンク・ナンバー



トリガー・タイプ

3. トリガー・バンク・ナンバーにカーソルを合わせ、[-] [+] ボタンまたはダイヤルでトリガー・バンクを TD716 に設定します。

4. [KIT] ボタンを押して、KIT 画面に戻ります。

09

ハイハット (VH-14D) の調整

VH-14D を使用するときは、接続したあとに必ず V71 でオフセットとハイハットの調整をしてください。

オープン、クローズやペダルの動きを正しく検出するために必要です。

オフセットを調整する

1. V71 の [TRIGGER] ボタンを押します。

2. [F4] (HI-HAT) ボタンを押します。

TRIGGER HI-HAT 画面が表示されます。

Trig Type が [VH-14D] になっていることを確認します。



3. [F6] (OFFSET) ボタンを押します。

HI-HAT OFFSET ADJUSTMENT 画面が表示されます。

4. VH-14D のクラッチ・スクリューをゆるめ、ハイハットを閉じた状態にします。

※ ハイハット本体やペダルには触らないでください。



5. [F6] (EXECUTE) ボタンを押します。

キャリブレーションが開始され [Processing...] と表示されます。キャリブレーションが終了すると [Complete!] と表示され、TRIGGER 画面に戻ります。

6. [KIT] ボタンを押して、KIT 画面に戻ります。

メモ

V71 の [KIT] ボタンを押しながら [TRIGGER] ボタンを押して、オフセットを調整することもできます。

ハイハットを調整する

1. トップ・シンバルとボトム・シンバルの間隔を 10mm 程度に調節し、クラッチ・スクリューを締め付けます。



※ 間隔は演奏しやすい距離に調節できますが、狭すぎたり広すぎたりすると誤動作を起こし、思いどおりに演奏できないことがあります。10mm が最も自然な感じで VH-14D を演奏できる間隔です。

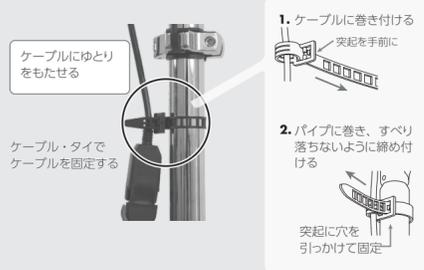
2. ペダルのパネのテンションを、ハイハット・スタンドで調節します。

テンションの調節方法については、お使いのハイハット・スタンドの取扱説明書をご覧ください。

※ パネのテンションが強すぎたり弱すぎたりすると、誤動作を起こし、意図した演奏ができないことがあります。

※ スタンドによっては、調節できない場合もあります。

ケーブルの固定方法



注意

- ご使用の年月とともに、パッドのゴム表面が変色することがありますが、使用上には影響ありません。
- ハイハットの詳細については、「VH-14D 取扱説明書」をご覧ください。

10

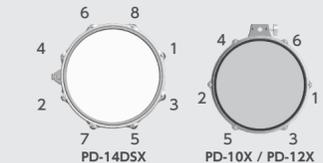
PD-14DSX、PD-10X、PD-12X のヘッドの張り具合を調節する

適切な打感が得られる張り具合に調節してください。

※ ヘッドの張り具合は、工場出荷時はゆるめになっています。ヘッドはやや強めに張ってください。ヘッドの張り具合がゆるすぎると、誤動作や故障の原因になります。

1. それぞれのチューニング・ボルトを少しずつ、図のように対角線を結び順に調節します。

2. ヘッドの張り具合が均等になるように、各チューニング・ボルトの締め具合を調整します。



注意

- 1箇所ずつのチューニング・ボルトを一度に強く締めないでください。ヘッドを均一に張れないため、適切な打感が得られなくなるだけでなく、誤動作の原因にもなります。
- ヘッドの張り具合の調節は、打感の調節をするもので、アコースティック・ドラムのように音の高さ (ピッチ) を調節するものではありません。ピッチは、ドラム音源の音色エディットで調節します。詳しくは、使用するドラム音源の取扱説明書をご覧ください。

音が鳴ったら、次は Roland Cloud に接続しよう!

Roland Cloud ではプレミアムなサウンド・コンテンツを次々と提供していきます。

「Roland Cloud Connect セットアップ・ガイド」(別紙)の手順に従って、Roland Cloud に接続しましょう。

安全上のご注意

火災・感電・傷害を防止するには

△警告と△注意の意味について

警告	注意
取り扱った場合に、使用者が死または重傷を負う可能性が想定される内容を表示しています。	△は、注意 (危険、警告を含む) を表しています。具体的な注釈内容は、△の中に描かれています。左図の場合は、「一般の注意、警告、危険」を表しています。
取り扱った場合に、使用者が軽傷を負う危険が想定される場合も含む内容の表示を想定されています。	○は、禁止 (してはいけないこと) を表しています。具体的な注釈内容は、○の中に描かれています。左図の場合は、「危険」を表しています。
※ 特定の警告とは、家庭・業財および家庭・業財にかかわる重大な損害を表しています。	●は、強制 (必ずすること) を表しています。具体的な注釈内容は、●の中に描かれています。左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

警告

次のような場所で使用や保管はしない

- 温度が極端に高い場所 (直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)
- 水気の近く (風呂場、洗面台、濡れた床など) や湿度の高い場所
- 潮気や油煙が当たる場所
- 塩害の恐れがある場所
- 雨に濡れる場所
- ほこりや砂ぼこりの多い場所
- 振動や揺れの多い場所
- 風通しの悪い場所

警告

指定のスタンドのみ使用する

本機の設置には、ローランドが推奨するスタンド (型番: MDS シリズ) を使用してください。

注意

不安定な場所に設置しない

本機の設置にスタンド (型番: MDS シリズ) を使用する場合は、ぐらつような場所や傾いた場所に設置せず、安定した水平な場所に設置してください。機器を単独で設置する場合も、同様に安定した水平な場所に設置してください。

注意

スタンドへ設置するときの注意

TD716 セットアップ・ガイドの指示どおりに設置してください。

正しく設置しないと、不安定な状態となって落下や転倒を引き起こし、けがをする恐れがあります。

警告

お子様がけがをしないように注意する

お子様のいる場所で使用する場合は、必ず大人のかたが、監視/指導してあげてください。

注意

指定のスタンドのみ使用する

本機は当社製のスタンド (MDS シリズ) とのみ、組み合わせで使用できるように設計されています。他のスタンドと組み合わせると、不安定な状態となって落下や転倒を引き起こし、けがをする恐れがあります。

注意

電源コードやケーブルは煩雑にならないように配線する

足に引っかかると、本機の落下や転倒などにより、けがの原因になることがあります。

注意

電源コードやケーブルは煩雑にならないように配線する

足に引っかかると、本機の落下や転倒などにより、けがの原因になることがあります。

注意

電源コードやケーブルは煩雑にならないように配線する

足に引っかかると、本機の落下や転倒などにより、けがの原因になることがあります。

注意

指などをはさまないように注意する

下記の可動部を操作するときは、指などははさまないように注意してください。必ず大人のかたが操作してください。

注意

指などをはさまないように注意する

下記の可動部を操作するときは、指などははさまないように注意してください。必ず大人のかたが操作してください。

注意

指などをはさまないように注意する

下記の可動部を操作するときは、指などははさまないように注意してください。必ず大人のかたが操作してください。

使用上のご注意

設置について

設置条件 (設置面の材質、温度など) によっては、本機のゴム足が設置した台などの表面を変色または変質させることがあります。

修理について

お客様が本機または付属品を分解 (取扱説明書に指示がある場合を除く)、改造された場合、以後の性能について保証できなくなります。また、修理をお断りする場合があります。

当社では、本機の補修用性能部品 (製品の機能を維持するために必要な部品) を、製造打切後 6 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。なお、保有期間を過ぎたあとも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店または当社サポート窓口にご相談ください。

その他の注意について

本機は、演奏時の打撃音を小さくする設計になっていますが、床や壁を通じての振動は意外によく伝わります。特にヘッドホン使用時の演奏は、隣近所に迷惑がからないように注意しましょう。

本機が入っていた梱包箱や緩衝材を廃棄するときは、各地域のゴミの分別基準に従ってください。

本機を裏返すときは、破損を防ぐためボタンやつまみなどを保護してください。また、落下や転倒を引き起こさないよう取り扱いに注意してください。

本書は、発行時点での製品仕様を説明しています。最新情報についてはローランド・ホームページをご覧ください。

知的財産権について

Roland、V-Drums は、日本国およびその他の国におけるローランド株式会社の登録商標または商標です。

文中記載の会社名および製品名などは、各社の登録商標または商標です。

本書では DSP 技術によってエミュレートされたサウンドを適切に表現するために、各社の会社名および製品名などを使用しています。